

### 課題 3

北群島 渋川地域の農産物・加工品の紹介

# 地域の特性を活かした 農業の活性化

計画年度：令和3～5年

中部農業事務所普及指導課  
渋川地区農業指導センター



# 1 課題設定の背景及び理由

平成18年 渋川広域農業活性化推進協議会 設立

## 目的

県、関係市町村、農業関係団体、観光関係団体が一体となり、  
「**渋川広域観光・高付加価値化農業の推進**」の  
具体化と着実な推進を図る。

グリーンツーリズム研究

地域特産開発

地域農産物流通促進

渋川市、榛東村、吉岡町  
【農政部、観光部、農業委員会協議会、学校給食共同調理場】

JA北群渋川、JA赤城たちばな  
【生産部会、生産者協議会、直売所協議会・利用組合】

農業経営士会渋川支部、渋川地区農村生活アドバイザーの会

農業青年クラブ、農村女性ネットワーク、農村女性起業、食生活改善推進員

(一社)渋川青年会議所、伊香保温泉お香女会、伊香保温泉観光協会

渋川行政事務所、渋川地区農業指導センター

# 1 課題設定の背景及び理由

## 渋川広域農業活性化推進協議会（現在）

### 幹事会

（3市町村、2J A、分科会長、普及組織）  
会議開催・協議会運営

事務局  
（市町村、普及）

運営支援

### 地産地消推進分科会

（JA・直売所、お香女会、農村女性起業、3市町村）

伊香保温泉への農産物供給、地域特産物の加工推進

### 観光農業推進分科会

（生産者組織、お香女会、観光協会、旅館組合、3市町村）

観光果樹園の振興・伊香保温泉との連携、特産物のPR

### 担当者会議（新規就農者・野菜振興）

（3市町村、2JA、普及組織）

企画提案  
技術支援

渋川地区農業  
指導センター

# 1 課題設定の背景及び理由

## ○協議会を取り巻く環境の変化

- 市町村、JAの組織改正(合併、支所統合)
- 野菜の少量多品目栽培
- 直売所組織の縮小、温泉との取引終了
- 伊香保温泉観光客層の変化

## ◎近年最大の変化要因

- 新型コロナウイルス感染症対策・行動制限
- 農産物PR活動の機会喪失
- 伊香保温泉、観光農園への観光客が激減



**ニューノーマルに対応した地域農業振興**

## 2 主な推進課題と解決手法

### (1) 渋川広域農業活性化推進協議会の運営支援

協議会運営の支援を通じて地域農業の活性化に取り組む。

### (2) 地産地消・観光農業の推進

地域農産物の需要喚起を図る。

地域資源を活用した6次産業化等女性農業者の活動を支援する。

観光農園や温泉地等の観光資源と連携した効果的な情報発信を行う。

### (3) 協議会としての地域農業の課題解決の取組

地域農業における課題を、協議会として取り組む課題と位置付け、解決に取り組む。

### 3 到達目標（目標年次の姿）

年次	R2	R3		R4		R5	
項目	現状	目標	実績	目標	実績	目標	実績
PR品目数(単年)	5	5	3	5		5	
情報発信回数 (単年)	5	5	3	5		5	
取り組む課題数 (累計)	0	1	1	2		3	



ニューノーマルに対応した活動  
協議会として地域の課題への取り組み

# 4 活動経過及び結果

## (1) 渋川広域農業活性化推進協議会の運営支援

### 【活動経過】

- 総会：1回（書面開催）
- 幹事会：4回（対面2回、書面2回）
- 地産地消推進分科会：3回
- 観光農業推進分科会：2回（対面1回、書面1回）
- 野菜振興会議：合計13回
- 担い手担当者会議：1回

### 【活動結果】

幹事会で地域農業の課題を検討・活動の承認を得た。

## (2) 地産地消・観光農業の推進

### ア 地産地消の推進

#### 【活動経過】

- レシぴリーフレット編集会議：3回
- 市町村小学校5，6年児童、中学校全学年生徒にリーフレット配布
- HP、Instagramでのレシぴリーフレット配信：各1回

#### 【活動結果】

- ◆ 小中学校で食育教材として活用
- ◆ 地域推進品目を検討する際にも活用
- ◆ Instagramへ掲載したことで女性グループにフォローされPRの機会が増加





### レシピリーフレット

印刷	7,000部
配布	小中学校 5,700部
	直売所・産直コーナー 400部
	伊香保温泉旅館 500部



リーフレットで授業

## (2) 地産地消・観光農業の推進

### イ 観光農業の推進

#### ○伊香保温泉での取組

経過：各温泉旅館にブルーベリー枝物、コンニャク鉢植を配布  
展示の様子や客の反応などSNSで情報発信を依頼

#渋伊榛吉の風 #渋川広域農業活性化推進協議会  
#ブルーベリー枝物 #コンニャク鉢植

結果：25アカウントで発信、800超の「いいね」評価

#### ○生産部会と連携したPR活動

経過：総会で農産物5品目のPRを提案→承認

品目：①ブルーベリー(7月 県庁)  
②ブドウ、リンゴ(赤城自然園)・・・中止  
③イチゴ、コンニャク(伊香保)・・・中止  
④地域農産物全般(3月 敷島駅前)

## (2) 地産地消・観光農業の推進

### Ⅰ 観光農業の推進

成果：協議会のPR活動を温泉旅館自身が発信する流れを構築  
温泉旅館から観光農園、直売所等へSNS世代の客足が期待  
地元の消費者へのPR効果を再確認（敷島駅前）



ブルーベリー枝物・コンニャク鉢植の展示



シキシマエキマエピクニック



### (3) 協議会としての地域農業の課題解決の取組 ア 野菜担当者会議

#### 【活動経過】

- J A 北群渋川野菜担当者会議：3回
- J A 北群渋川 T A C 会議：5回
- J A 北群渋川コンニャク補完作物検討会：2回
- J A 赤城たちばな野菜振興会議：3回

#### 【活動結果】

- ◆ コンニャク補完作物として、ネギ類を選定。
- ◆ 上州ネギを導入したコンニャク生産者1戸。初年度の目標収益を達成。
- ◆ ナス、ネギを振興品目として体系化推進で合意。



### (3) 協議会としての地域農業の課題解決の取組 ウ GAPに取り組む生産者の支援

#### 【活動経過】

○農業青年クラブプロジェクト活動を通じてGAP手法による経営改善の理解を深める検討を行った。

- ・役員会：13回、全体会議：3回、農林大視察研修：1回
- ・榛東村認定農業者協議会研修会講師：1回
- ・県農業青年実績発表会：1月31日

#### 【活動結果】

- ◆ プロジェクト活動実績優秀賞を受賞。
- ◆ クラブ員個々人が農薬・機械等の危険箇所洗い出しを行うようになった。
- ◆ 渋川市支援事業で「JGAP指導員」資格取得を推進。

# 5 残された課題と今後の対応

## 【課題1】

- 活動の停滞
- 世代を重ね協議会の目的・目標が現状に即さなくなっている。

## 【課題2】

- 市町村、JA、指導センターが、どのように役割を分担し、どうやって農業者に対応していくか。



## 【今後の対応】

- 市町村の農政部・JAの営農部、指導センターが一堂に会し、農業振興を検討する場として必要
- 地域の農業振興を協議する場としての協議会であるよう、あり方を提案し検討していく。

**ご清聴、ありがとうございました。**